

【一】 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

「鞆」と書いて「かばん」と読みます。語源や文字の由来は諸説がありますが、「革」で「包む」というのは「かばん」の性質をよく言い表していると言えるでしょう。「重い・高い・傷つきやすい」革鞆の短所を克服した、「軽い・安い・傷つきにくい」ナイロン製鞆の割合が増えてきたために、今では「鞆」という漢字表記のかわりに、ひらがなで「かばん」と表記することも多いようです。革鞆の割合は少なくなる一方ですが、ナイロンにはない質感や、つかいこむことによって味わい深くなる特性などあいまって、まだまだ愛用者は多いようです。

革鞆をはじめ日本製の鞆は世界的にも品質のすぐれたものとされています。お祖父さんのつかっていた明治時代のトランクが、修理されながら今でもつかわれていたりします。ヨーロッパの鞆製造関係者が、日本製の鞆を見るとその品質の良さに驚くというのは昔からよく言われてきたことでした。しかし意外なことに、日本における鞆製造の歴史はとても短いのです。鞆はもともとヨーロッパ文化の産物であり、江戸時代までの日本に革鞆はありません。明治以降の西欧化とともに日本でも製造されはじめたわけで、当然歴史は浅いのです。そんな日本製の鞆がすぐれているのはなぜでしょうか。

日本の代表的な鞆の産地は兵庫県の豊岡市です。豊岡市は鞆が産業の中心と言ってもよいほどの都市であり、最盛期は日本の鞆の実に八割を生産するほどでした。もともと豊岡は柳行李など柳製品の特産地であり、その歴史は遠く奈良時代の頃にさかのぼります。行李と鞆は「ものをいれて運ぶ」道具という点が似ているので、いろいろな工夫を適用できる素地があったのです。大正時代にはすでに柳を使用した「鞆型柳行李」が考案されています。その後、生活様式の変化により柳製品の生産は減少する運命にありましたが、柳製品製造の歴史でつちかわれた技術を、早い段階からいろいろ工夫して鞆製品に適用してきたことが、後に鞆生産地としての一大発展につながりました。日本独特の柳行李を製造する技術と、西欧伝来の鞆を製造する技術は、一見すると全く別のものなのですが、ものづくりにおける人間の技術というものは、非常に柔軟な面を持っています。たとえば、戦後には柳製の買物用の手提げ籠などが考案されましたが、これも上手な適用の一例で、爆発的に生産量が伸びた製品の一つです。この技術というものは、つくる側が一方的にいくら工夫しても発達しません。なぜなら「ものをつくる」とことと「ものをつかう」とことは表裏一体なので、ものをつくる側が一方的に発達することはないのです。先の柳行李と鞆の例で言えば、つかう側が鞆という従来にはなかったものをつかうようになったからこそ、つくる側も創意工夫して、従来の技術の適用や新たな技術の開発ができたのでした。柳製の手提げ籠も当時の人々の生活からの要求にびったり一致したからヒットしたのです。今ではビニール袋の登場により、買物用の手提げ籠はあまり見かけなくなってしまうしました。これも結局つかう側の変化です。つまり、つかう側が変化すると、つくる側もそれに合わせて変化せざるをえないという関係がここにあるのです。

どんなにすばらしい技術でもそのことはあてはまりません。たとえば、社会の変化によりつかう側がそれを全くつかわなくなるようなことになると、つくる側の技術は一気に低下してしまいます。人間の技術は、その歴史と共に発展してきましたが、その一方で消滅する技術もまたあるのです。たとえば技術の消滅が著しいものの一つに日本刀の技術があります。明治時代になると刀をつかわなくなり、それをつくる職人たちは仕事量が激減しました。日本刀の鑄や鍛冶の目貫の細工も、長い歴史の中ではすばらしい技術を継承してきましたが、それもこの時一気に消滅してしまいました。細工職人の中には、当時の新しいものの一つである懐中時計の裏蓋の装飾などに自らの技術を転用した者もいましたが、結局その技術もほとんどだえてしまいました。さらに敗戦により軍人からの需要もなくなり、占領軍の方針により日本刀自体が大量に没収されました。今では製造や所有にも制限が設けられ、特殊な目的以外にはほとんど製造されなくなり、技術の消滅に拍車がかかっています。これは、つかう側の変化がつくる側を直撃した一例です。

実際の生活の中で刀がつかわれなくなったのだから、べつに刀の技術などなくても困らないと思うかもしれませんが、①ことはそれほど単純ではありません。刀の技術というものは単に日本刀だけではなく刃物全体の技術に直結します。しかも刃物はものをつくる際の基本的な道具です。最初に日本製の鞆はすぐれているという話をしましたが、鞆を例にとると、革鞆をつくる際にはさまざまな②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㏀㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂㡃㡄㡅㡆㡇㡈㡉㡊㡋㡌㡍㡎㡏㡐㡑㡒㡓㡔㡕㡖㡗㡘㡙㡚㡛㡜㡝㡞㡟㡠㡡㡢㡣㡤㡥㡦㡧㡨㡩㡪㡫㡬㡭㡮㡯㡰㡱㡲㡳㡴㡵㡶㡷㡸㡹㡺㡻㡼㡽㡾㡿㢀㢁㢂㢃㢄㢅㢆㢇㢈㢉㢊㢋㢌㢍㢎㢏㢐㢑㢒㢓㢔㢕㢖㢗㢘㢙㢚㢛㢜㢝㢞㢟㢠㢡㢢㢣㢤㢥㢦㢧㢨㢩㢪㢫㢬㢭㢮㢯㢰㢱㢲㢳㢴㢵㢶㢷㢸㢹㢺㢻㢼㢽㢾㢿㣀㣁㣂㣃㣄㣅㣆㣇㣈㣉㣊㣋㣌㣍㣎㣏㣐㣑㣒㣓㣔㣕㣖㣗㣘㣙㣚㣛㣜㣝㣞㣟㣠㣡㣢㣣㣤㣥㣦㣧㣨㣩㣪㣫㣬㣭㣮㣯㣰㣱㣲㣳㣴㣵㣶㣷㣸㣹㣺㣻㣼㣽㣾㣿㤀㤁㤂㤃㤄㤅㤆㤇㤈㤉㤊㤋㤌㤍㤎㤏㤐㤑㤒㤓㤔㤕㤖㤗㤘㤙㤚㤛㤜㤝㤞㤟㤠㤡㤢㤣㤤㤥㤦㤧㤨㤩㤪㤫㤬㤭㤮㤯㤰㤱㤲㤳㤴㤵㤶㤷㤸㤹㤺㤻㤼㤽㤾㤿㥀㥁㥂㥃㥄㥅㥆㥇㥈㥉㥊㥋㥌㥍㥎㥏㥐㥑㥒㥓㥔㥕㥖㥗㥘㥙㥚㥛㥜㥝㥞㥟㥠㥡㥢㥣㥤㥥㥦㥧㥨㥩㥪㥫㥬㥭㥮㥯㥰㥱㥲㥳㥴㥵㥶㥷㥸㥹㥺㥻㥼㥽㥾㥿㦀㦁㦂㦃㦄㦅㦆㦇㦈㦉㦊㦋㦌㦍㦎㦏㦐㦑㦒㦓㦔㦕㦖㦗㦘㦙㦚㦛㦜㦝㦞㦟㦠㦡㦢㦣㦤㦥㦦㦧㦨㦩㦪㦫㦬㦭㦮㦯㦰㦱㦲㦳㦴㦵㦶㦷㦸㦹㦺㦻㦼㦽㦾㦿㧀㧁㧂㧃㧄㧅㧆㧇㧈㧉㧊㧋㧌㧍㧎㧏㧐㧑㧒㧓㧔㧕㧖㧗㧘㧙㧚㧛㧜㧝㧞㧟㧠㧡㧢㧣㧤㧥㧦㧧㧨㧩㧪㧫㧬㧭㧮㧯㧰㧱㧲㧳㧴㧵㧶㧷㧸㧹㧺㧻㧼㧽㧾㧿㨀㨁㨂㨃㨄㨅㨆㨇㨈㨉㨊㨋㨌㨍㨎㨏㨐㨑㨒㨓㨔㨕㨖㨗㨘㨙㨚㨛㨜㨝㨞㨟㨠㨡㨢㨣㨤㨥㨦㨧㨨㨩㨪㨫㨬㨭㨮㨯㨰㨱㨲㨳㨴㨵㨶㨷㨸㨹㨺㨻㨼㨽㨾㨿㩀㩁㩂㩃㩄㩅㩆㩇㩈㩉㩊㩋㩌㩍㩎㩏㩐㩑㩒㩓㩔㩕㩖㩗㩘㩙㩚㩛㩜㩝㩞㩟㩠㩡㩢㩣㩤㩥㩦㩧㩨㩩㩪㩫㩬㩭㩮㩯㩰㩱㩲㩳㩴㩵㩶㩷㩸㩹㩺㩻㩼㩽㩾㩿㪀㪁㪂㪃㪄㪅㪆㪇㪈㪉㪊㪋㪌㪍㪎㪏㪐㪑㪒㪓㪔㪕㪖㪗㪘㪙㪚㪛㪜㪝㪞㪟㪠㪡㪢㪣㪤㪥㪦㪧㪨㪩㪪㪫㪬㪭㪮㪯㪰㪱㪲㪳㪴㪵㪶㪷㪸㪹㪺㪻㪼㪽㪾㪿㫀㫁㫂㫃㫄㫅㫆㫇㫈㫉㫊㫋㫌㫍㫎㫏㫐㫑㫒㫓㫔㫕㫖㫗㫘㫙㫚㫛㫜㫝㫞㫟㫠㫡㫢㫣㫤㫥㫦㫧㫨㫩㫪㫫㫬㫭㫮㫯㫰㫱㫲㫳㫴㫵㫶㫷㫸㫹㫺㫻㫼㫽㫾㫿㬀㬁㬂㬃㬄㬅㬆㬇㬈㬉㬊㬋㬌㬍㬎㬏㬐㬑㬒㬓㬔㬕㬖㬗㬘㬙㬚㬛㬜㬝㬞㬟㬠㬡㬢㬣㬤㬥㬦㬧㬨㬩㬪㬫㬬㬭㬮㬯㬰㬱㬲㬳㬴㬵㬶㬷㬸㬹㬺㬻㬼㬽㬾㬿㭀㭁㭂㭃㭄㭅㭆㭇㭈㭉㭊㭋㭌㭍㭎㭏㭐㭑㭒㭓㭔㭕㭖㭗㭘㭙㭚㭛㭜㭝㭞㭟㭠㭡㭢㭣㭤㭥㭦㭧㭨㭩㭪㭫㭬㭭㭮㭯㭰㭱㭲㭳㭴㭵㭶㭷㭸㭹㭺㭻㭼㭽㭾㭿㮀㮁㮂㮃㮄㮅㮆㮇㮈㮉㮊㮋㮌㮍㮎㮏㮐㮑㮒㮓㮔㮕㮖㮗㮘㮙㮚㮛㮜㮝㮞㮟㮠㮡㮢㮣㮤㮥㮦㮧㮨㮩㮪㮫㮬㮭㮮㮯㮰㮱㮲㮳㮴㮵㮶㮷㮸㮹㮺㮻㮼㮽㮾㮿㯀㯁㯂㯃㯄㯅㯆㯇㯈㯉㯊㯋㯌㯍㯎㯏㯐㯑㯒㯓㯔㯕㯖㯗㯘㯙㯚㯛㯜㯝㯞㯟㯠㯡㯢㯣㯤㯥㯦㯧㯨㯩㯪㯫㯬㯭㯮㯯㯰㯱㯲㯳㯴㯵㯶㯷㯸㯹㯺㯻㯼㯽㯾㯿㰀㰁㰂㰃㰄㰅㰆㰇㰈㰉㰊㰋㰌㰍㰎㰏㰐㰑㰒㰓㰔㰕㰖㰗㰘㰙㰚㰛㰜㰝㰞㰟㰠㰡㰢㰣㰤㰥㰦㰧㰨㰩㰪㰫㰬㰭㰮㰯㰰㰱㰲㰳㰴㰵㰶㰷㰸㰹㰺㰻㰼㰽㰾㰿㱀㱁㱂㱃㱄㱅㱆㱇㱈㱉㱊㱋㱌㱍㱎㱏㱐㱑㱒㱓㱔㱕㱖㱗㱘㱙㱚㱛㱜㱝㱞㱟㱠㱡㱢㱣㱤㱥㱦㱧㱨㱩㱪㱫㱬㱭㱮㱯㱰㱱㱲㱳㱴㱵㱶㱷㱸㱹㱺㱻㱼㱽㱾㱿㲀㲁㲂㲃㲄㲅㲆㲇㲈㲉㲊㲋㲌㲍㲎㲏㲐㲑㲒㲓㲔㲕㲖㲗㲘㲙㲚㲛㲜㲝㲞㲟㲠㲡㲢㲣㲤㲥㲦㲧㲨㲩㲪㲫㲬㲭㲮㲯㲰㲱㲲㲳㲴㲵㲶㲷㲸㲹㲺㲻㲼㲽㲾㲿㳀㳁㳂㳃㳄㳅㳆㳇㳈㳉㳊㳋㳌㳍㳎㳏㳐㳑㳒㳓㳔㳕㳖㳗㳘㳙㳚㳛㳜㳝㳞㳟㳠㳡㳢㳣㳤㳥㳦㳧㳨㳩㳪㳫㳬㳭㳮㳯㳰㳱㳲㳳㳴㳵㳶㳷㳸㳹㳺㳻㳼㳽㳾㳿㴀㴁㴂㴃㴄㴅㴆㴇㴈㴉㴊㴋㴌㴍㴎㴏㴐㴑㴒㴓㴔㴕㴖㴗㴘㴙㴚㴛㴜㴝㴞㴟㴠㴡㴢㴣㴤㴥㴦㴧㴨㴩㴪㴫㴬㴭㴮㴯㴰㴱㴲㴳㴴㴵㴶㴷㴸㴹㴺㴻㴼㴽㴾㴿㵀㵁㵂㵃㵄㵅㵆㵇㵈㵉㵊㵋㵌㵍㵎㵏㵐㵑㵒㵓㵔㵕㵖㵗㵘㵙㵚㵛㵜㵝㵞㵟㵠㵡㵢㵣㵤㵥㵦㵧㵨㵩㵪㵫㵬㵭㵮㵯㵰㵱㵲㵳㵴㵵㵶㵷㵸㵹㵺㵻㵼㵽㵾㵿㶀㶁㶂㶃㶄㶅㶆㶇㶈㶉㶊㶋㶌㶍㶎㶏㶐㶑㶒㶓㶔㶕㶖㶗㶘㶙㶚㶛㶜㶝㶞㶟㶠㶡㶢㶣㶤㶥㶦㶧㶨㶩㶪㶫㶬㶭㶮㶯㶰㶱㶲㶳㶴㶵㶶㶷㶸㶹㶺㶻㶼㶽㶾㶿㷀㷁㷂㷃㷄㷅㷆㷇㷈㷉㷊㷋㷌㷍㷎㷏㷐㷑㷒㷓㷔㷕㷖㷗㷘㷙㷚㷛㷜㷝㷞㷟㷠㷡㷢㷣㷤㷥㷦㷧㷨㷩㷪㷫㷬㷭㷮㷯㷰㷱㷲㷳㷴㷵㷶㷷㷸㷹㷺㷻㷼㷽㷾㷿㸀㸁㸂㸃㸄㸅㸆㸇㸈㸉㸊㸋㸌㸍㸎㸏㸐㸑㸒㸓㸔㸕㸖㸗㸘㸙㸚㸛㸜㸝㸞㸟㸠㸡㸢㸣㸤㸥㸦㸧㸨㸩㸪㸫㸬㸭㸮㸯㸰㸱㸲㸳㸴㸵㸶㸷㸸㸹㸺㸻㸼㸽㸾㸿㹀㹁㹂㹃㹄㹅㹆㹇㹈㹉㹊㹋㹌㹍㹎㹏㹐㹑㹒㹓㹔㹕㹖㹗㹘㹙㹚㹛㹜㹝㹞㹟㹠㹡㹢㹣㹤㹥㹦㹧㹨㹩㹪㹫㹬㹭㹮㹯㹰㹱㹲㹳㹴㹵㹶㹷㹸㹹㹺㹻㹼㹽㹿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿

一方、つくる側の変化がつかう側を変えてしまうこともあります。(注6)高度経済成長期には、鞆はもちろんあらゆる領域で、もうけ優先の大量生産の風潮が広まりました。手間や時間のかかる技術は、時代おくれのものとして大事にされませんでした。つくる側がそうした技術を大事にしないと、つかう側はどうなるでしょうか。大量生産によって社会全体にものがあふれるようになると、人間というものは次々に新しいものとびつくようになり、一つのものを長くつかい続けるというようなことは無くなってしまいます。こうした意識の変化は、熟練した職人に依存するような

技術の消滅をますます加速することになりました。このことは、つくる側とつかう側の関係それ自体が、実は社会のありかたそのものと密接にかかわっていることのあらわれでもあります。

「蜘蛛がどんなに見事な巣をつくることができ、それと同じものを人間がつくれないとしても、人間のものをつくる能力は蜘蛛のそれよりはるかにすぐれている」というのは有名な哲学者の言葉ですが、人間の能力や技術は無限大なのです。これまで見てきたように、人間がつくったものには、それまでの技術の歴史が詰まっているということでもあるのです。一つの技術がとだえることは、新たな技術の発達の可能性の芽を摘んでしまうことでもあるのです。技術が消滅することはいつの時代にもあるわけですが、今日の消滅のスピードは普通ではありません。そうした中で、④つかう側は特にものに対する自分の意識を考え直してみることが、技術の消滅に歯止めをかけるきっかけになるかもしれません。

(本文は本校国語科による。ただし一部『銀座百点』二〇〇九年七月号に掲載された、永六輔・山田五郎・いとうせいこう三氏の座談会からの引用がある。)

(注1) 柳行李Ⅱ柳を編んでつくられた蓋^{ふた}の箱で、旅行用の荷物入れや衣類の収納に用いられた道具。

(注2) 鐔Ⅱ刀剣^{とうけん}の柄^{つか}と刀身との間にはさんで、手を傷つけないようにするもの。

(注3) 目貫Ⅱ刀剣の柄の外にあらわれた釘^{くぎ}が装飾^{そうじやく}されたもの。

(注4) 鉋Ⅱ材木の表面をけずって加工する木工用の工具。さまざまな種類があり、材木以外にも用途^{ようど}は広い。

(注5) 和紙を漉く時に使う簀子Ⅱ水に溶かした紙の材料をその上にうすくのばして、紙を製造するための道具。

(注6) 高度経済成長期Ⅱ一九五〇年代半ばから七〇年代初めの時期。

問一 傍線部①「非常に柔軟な面を持っています。」とありますが、それはどういうことですか。

問二 傍線部②「ことはそれほど単純ではありません。」とありますが、どうしてそのように言えるのですか。

問三 傍線部③「つくる側の悲しい現実」とありますが、「悲しい」とはどういう点を指しているのですか。

問四 傍線部④「つかう側は特にものに対する自分の意識を考え直してみる」とありますが、どのように考え直すのですか。

【二】

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

事故で両親を失ったジョンは、アメリカ中北部の森のはずれにある小さな農場で、四歳の時から祖父のクレイと祖母のアガサによって育てられ、九年の歳月が流れた。今年も、毎年恒例^{こうれい}のシカ狩りのシーズンがやってきたが、最近祖父は手のほどこし^かのない癌^{がん}にかかっていることがわかり、医者から二、三か月の命であると診断^{しん断}されていた。

以前、よその州からわざわざここまでシカを撃ち^うてきた人がいた。その人が、狩りをするわけをこんなふうに話した。

「おれはね、シカを撃つと、男らしくなれるような気がするんだ」

その人はさらに、シカ狩りに必要な知識やテクニクについて A とくどくと語り、最後に、ぜひクレイの土地でシカを撃ちたい、といった。だが、祖父は首をたてにふろうとしなかった。そのハンターの考えかたが、狩り本来の姿から遠くかけはなれていたからだ。

「肉を手にいれる。それがわしらのやつとることだ」去っていくハンターの車を見送りながら、クレイはジョンにいつて聞かせた。「肉を手にいれるために銃^{じゆう}を使うだけのことだ。男らしさのためなんかじゃない。生きものを殺したからといって、人間、そうそう変わるものか。肉のために狩る。それだけでいいんだ」

そして、ジョンにいわせれば、それこそが狩^{しかり}のあるべき姿だった。狩りをするのは、あくまでも、冬にそなえて肉を手にいれるためなのだ。それから四年あまりが過ぎた。いまでは狩りについてそれほど深刻に考えることもなかったが、やはり、解禁前夜の気持ちのたかぶりだけはおさえきれない。銃^{じゆう}を手にとってみがきはじめると、興奮が頭の奥^{おく}でうずまいた。ために銃^{じゆう}をかまえてみるだけで、興奮が背すじを駆けくだった。

ジョンは、台所のテーブルで銃の手入れをしていた。小さなドライバーでライフルを分解し、古い歯ブラシで部品をひとつひとつきれいにみがいていく。

クレイは、あいかわらず木彫^{きぼ}りをしていた。紅茶を飲みながら、ときどき、①よしよしというようにうなずいてよこす。

「朝のうちに沼地^{ぬまち}を北にいけば、きつとりつばな牡^おジカがいるぞ。最初は、獣脂^{じゅうし}用に牡^おを撃て。食用の牝^めはあとからじつくり攻^せめるんだ」

ジョンはうなずいた。

「沼地は考えたけど、雪がつもつてると、ちよつときついかもね」

る。あすの朝はあたり一面が新雪におおわれて、足あとはすべてまあたりしくなっているだろう。

「いつしよにきてくれればいいのに」

「遠慮しとくよ。今年は開店休業だ」クレイは木彫りをしていた手をしばしとめて、窓の外に視線をさまよわせた。「今回はバスだ。もうシカ狩りはいやというほどやっとなるからな」

② ジョンは目がうるんでくるのを感じて、あわてて感情を飲みくだそうとした。

「……そう。もちろん、ぼくひとりでも肉のほうはだいじようぶ。だけど、おじいちゃんといっしよのほうが楽しいと思つてさ」

一瞬、ふたりのあいだに沈黙がおりた。ストーブの貯水タンクの上でパンをこねていたアガサがふりむいて、だまって視線をテーブルからジョンとクレイにうつし、そして、ふたたび手もとへもどした。

アガサは泣いていた。

「くそつ。しめつばいのはもうたくさんだ。めそめそするのもいいかげんにしろ」

ジョンはびつくりした。クレイがこんなふうには悪態をつくのは、めつたにないことだった。そもそも、家で悪態をつくような人ではないのだ。ジョンはライフルの部品をそつとテーブルの上においた。

「わしの身に起こっていることは、この地球に生きていれば、だれにだつてかならずいつかは起こることなんだ。だれだつて、逃げもかくれもできないのだ。だれだつて。さあ、わしの前で涙など見せんでくれ。さつさと仕事にもどるんだ。いいな？」

クレイのからだがかわばっているのがわかった。石のように身をかたくして、窓の外を見つめている。まるで、いまのことは世界に向かって語りかけたのだともいうかのように。

だが、外はもうまっ暗でなにも見えはしない。ひらひらと舞う雪が、テーブルにおいてあるランプの明かりに、ときおり白く浮かびあがるばかりだ。

アガサはたつぷり十秒ほどクレイの背中を見つめていたが、急に身をひるがえして台所からとびだしていった。泣きながら。ジョンは、そのあと三十秒ほどたつてからやつとライフルをとりあげて、もう一点のくもりもなくぴかぴかの銃身をこしこすりはじめた。

クレイがひとつため息をついた。

「やれやれ……③ あんないかたはまずかつたか。悪気はないんだがな。どうだ？ おまえは、④ わしのいいたいことをわかつてくれるか？」

ジョンはうなずいた。

「だいたいね。その……なんていうのかな……こんどはおじいちゃんの番、つていうことなんだよね。でも、身近な人がそんなことになるなんて……」

……

それ以上は考えなくなかった。

「ああ、そうだな。だが、わかつたところでなにひとつ変わらんのだよ。そうなるものはそうなる。それが真実だ。曲げようのない真実なんだよ。どうあがいたつて、変えることなどできやしない。いやでもそうなつちまう。そういうものさ」

どうして？ どうしておじいちゃんはこんないいかたをするんだろう。自分自身の死のことなのに。自分自身の最期のことなのに。おじいちゃん、の最期のことなのに。

「わしだつて若いころは、そんなことがあつてたまるもんかと思つたよ」

クレイは木片を手にとつて彫りはじめた。視線は一心に手もとの木切れにそそがれている。いま彫っているのは作業馬だった。いずれは、それもつくつて、その木彫りの馬にひかせるつもりなのだ。削りかすがくるくるとまるまってテーブルの上に落ちていく。やがて、クレイは、たまった木くずをそつとかき集めてストーブにくべた。そして、また彫りはじめる。やわらかなめらかなマツの木肌、優美な曲線がえがきだされていく。

「だが、それはまちがつてた」

沈黙がたれこめた。ジョンはライフルを、クレイは木彫りを見つめたまま、どちらも顔をあげようとしなない。

ふたりが口を開く前に、アガサがもどつてきた。まだ目がうるんでいた。うしろにゆつた髪がほつれて、白髪が数本うなじにかかっている。ストーブのところのいつたものの、やりかけの料理があるわけでもなく、アガサは、所在なげに立ちつくしていた。

「すまなかつたな、(き)アギー」クレイは木彫りの手をとめない。「どうも、たまにかんしゃくを起こしちまう。すまない」

「いやですよ。そんなあらたまつて」

その瞬間、すべてはまたもとどおりに動きだした。木彫りをするクレイ。ストーブのそばのアガサ。アガサの口調はてきばきとしている。クレイとジョンの度を越した悪ふざけをたしなめた……そんな感じの口調だ。

「シカを撃つたら、レバーをとつてきてくれんかな」クレイが不意に木彫りから目をあげていった。「新鮮なレバーが恋しくてな。忘れないでくれよ」

二年くらい前から、シカのレバーには寄生虫がいるといううわさがひろまつていた。それで、ジョンたちも大事をとつて、シカを撃つてもレバーはいつも捨てていた。

「オーケー、忘れない」

「たのんだぞ。とりたてのシカのレバーをオイルでさつと焼く。つけあわせは、新鮮なタマネギと、油をたつぷり使つてあげたジャガイモ。これこ

そ、ほんもののごちそうってものだ」

「油はだめ」流してタンクに水をいれていたアガサが、さつとふりむいた。「とりすぎると、からだにさわるわ」
クレイのくちびるにほほえみが浮かんだ。

「うーん、そうだな、そうかもしれない……。だが、まあ、いまさらあれこれ気にしたって、どうなるもんでもないさ。ちよつとばかりあぶらっこいものを食べても、もう関係ないだろう」

「⑥それでも、だめ」

「レバー、とつてくるからね」ジョンがわりこんだ。「忘れないよ。レバーと、それから心臓もだ。うまくしとめられたらだけどね」

「だいじょうぶ、しとめられるとも。おまえはコツをつかんでるからな。毎年毎年獵に出て一頭もしとめられん者もいれば、獵のたびにしとめてくる者もいる。おまえは自信をもつていい。わしがかならずしとめたように、おまえもかならずしとめられる」

「今年もいつしよにいつてくれればいいのに」

口がすべって、そのひとことがとびだしてきた。クレイの目がすうつと細くなる。

しまった。またこの話をむしかえすなんて、なんてまぬけなんだ、ぼくは。

ジョンは自己嫌悪^{けんお}におちいった。クレイを傷つけたことで、自分を責めた。

「今回は、わしはるすばんだ」クレイは視線を落とした。「今年はひとりでやってみろ。おまえの時代がきたんだよ。わしはもう引退させてもらおう」
ジョンは、歯をくいしばって銃の手入れに意識を集中した。

外では、あとからあとから舞い落ちる雪が、風に吹かれて踊^{おど}っている。雪は、窓辺をかすめる一瞬に、黄色いランプの光を浴びてちらちらと白く光った。

(ゲイリー・ポールセン作／安野^{あんの} 玲訳^{れい}『はてしなき追跡^{ついでき}』)

(注) アギー＝親しみをこめたアガサの呼び名。

問一 傍線部A・Bの意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

A 「とくとくと」

B 「所在^{しぜん}なげに」

ア しつこいくらいに

ア 悲しそうな様子で

イ じつくりと

イ 落ち着かない様子で

ウ 早口で

ウ 手持ちぶさたな様子で

エ 際限なく

エ 元気のない様子で

オ 得意げに

オ 何か言いたそうな様子で

問二 傍線部①「よしよしというようにうなずいてよこす。」とありますが、このときクレイはどのような気持ちでしたか。

問三 傍線部②「ジョンは目がうるんでくるのを感じて、あわてて感情を飲みくたそうとした。」とありますが、それはジョンのどのような様子を表していますか。

問四 傍線部③「あんないいかた」とありますが、それはどのような言い方ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア アガサの気持ちをまったく理解できずに、泣いたことを非難するような言い方。

イ アガサの気持ちを分かっているが、アガサを一方向的に責めるような言い方。

ウ アガサの気持ちを無視して、アガサだけに罪をなすりつけるような言い方。

エ アガサの気持ちを理解しているのに、知らないふりをするような言い方。

問五 傍線部④「わしのいいたいこと」とありますが、それはどのようなことだと考えられますか。

問六 傍線部⑤「それでも、だめ」とありますが、ここからアガサのどのような気持ちがわかりますか。

【三】

次のカタカナの部分に漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 会社のリエキをあげる。 | ⑪ 発想がマズしい。 |
| ② キュウキョクの目的を見つける。 | ⑫ 下級生をミチビく。 |
| ③ 品質をケンサする。 | ⑬ 歯がイタむ。 |
| ④ ウンチンを値上げる。 | ⑭ コナをまぜる。 |
| ⑤ みんなでトウロンする。 | ⑮ スジを通す。 |
| ⑥ ヒョウジュン的な記録。 | |
| ⑦ 日本国ケンボウを学ぶ。 | |
| ⑧ ニンムをはたす。 | |
| ⑨ タンサン飲料を買う。 | |
| ⑩ ジョレツをつける。 | |

受験番号

氏名

評点

【一】

問一

問二

問三

問四

【二】

問一

A

B

問二

問三

問四

問五

問六

【三】

⑪	⑥	①
しい		
⑫	⑦	②
く		
⑬	⑧	③
む		
⑭	⑨	④
⑮	⑩	⑤